

## 無人ヘリの水稻防除が最盛期



稲刈りシーズンを前に、ＪＡ筑紫無人ヘリ防除作業部会による水稻防除作業が最盛期を迎えています。

平成 30 年度水稻防除作業の依頼数は 1,950 件、面積は約 262ha を予定。出穂状況や病害虫の発生状況、天候などに十分注意しながら9月中旬まで作業を行います。ヘリ防除部会は、ＪＡ管内の組合員 10 名で構成。無人ヘリ2機による米・麦・大豆の病害虫防除活動に取り組み、部会員がオペレーター・ナビゲーター・補助員の3人1組で役割を分担し、農薬を散布するヘリの高さや風向きに十分注意を払っています。

ＪＡ農産課の担当職員は、「安全に気を付け、組合員のために作業を行ってほしいです」と話しました。

## 親子で料理に挑戦



ＪＡ筑紫女性部フレッシュミズは、8月7日にＪＡ那珂川支店で、平成30年度夏休み親子料理教室を開きました。夏休み期間の食育活動として地元野菜を使った料理を作ろうと、女性部フレッシュミズに所属する部員が親子で参加しました。

メニューは、「夏野菜のカレー」など3種類。参加した子どもたちは、母親に野菜の切り方などを教わりながら楽しく調理を進めました。

参加した子どもは「友達と一緒に、自分で作った料理は、おかわりするくらい美味しかったです！」と笑顔を見せていました。

## 10年後も元気なＪＡ筑紫であるために



ＪＡ筑紫は、8月8日、職員の意識向上を目指す第5期元気塾の開講式を開きました。将来、中核となる職員ら 10 名を選抜し、約4ヶ月間で合計7回の研修を行います。

塾では、10年後もＪＡ筑紫が元気であるために、将来の組織ビジョンを考えます。職員が組織全体の活性化を目指し、強い組織の構築に繋げることが目的。取り組み内容は、外部講師を招き「組織論基本と経営」「論理的思考、問題解決」など。成果発表として役員へのプレゼンテーションを行う予定です。

開講式では、白水清博組合長から任命書を交付し、受け取った職員は、次世代リーダーとしての決意を新たにしました。白水組合長は「10年後も組合員のかとなれるように、スキルを身につけてほしい」と激励しました。

## 小学生が料理に挑戦



ＪＡ筑紫は、８月８日に筑紫野市の筑紫南コミュニティセンターとこども料理教室を共催し、児童１８名が参加しました。

ＪＡ営農生活部職員が講師を務め、米の生産から流通までの過程を説明。児童は、ＪＡ職員の話真剣に聴いていました。

調理は、ＪＡ女性部員が指導。児童は、「カップすし」と、福岡の郷土料理「だぶ」に挑戦しました。子ども達は、女性部員と楽しみながら調理を行っていました。また、エコープマーク品を使って「シュワシュワオレンジゼリー」も作りました。

参加した子ども達は「おいしく作ることが出来てとても嬉しいです。家でも作ってみたい！」と笑顔で話していました。

## 田んぼ探検で稲や生き物をじっくり観察



ＪＡ筑紫は、筑紫野市の山口支店で店舗運営委員を中心に、ふれあい活動の一環として、山口コミュニティセンターと「夏休み子どもひろば」を共催。小学生と保護者など５７名と「ＪＡの田んぼ探検&おにぎりづくり」を楽しみました。

地域の児童に、米の生産から流通までの学習や、おにぎりを作ることで、食の大切さを学んでもらうことが目的で、ＪＡ営農生活部職員が米の栽培や田んぼの生き物などについて説明。その後、参加者は虫取り網を片手に田んぼで、稲の状態や田んぼに生息する生き物を観察しました。

昼食では、ＪＡ女性部員と児童と一緒におにぎりを作り、自分で作ったおにぎりの味に児童は「とても美味しい！」と笑顔で食べていました。

また昼食後、児童にお米を大切にしてほしいという思いを込めてＪＡ女性部が「お米ありがとう音頭」を踊りました。踊りの中に、お米が出来るまでの４つの過程（田植え・田んぼの草取り・稲刈り・脱穀）を取り入れ、農作業の様子を分かりやすく表現。踊りを見た児童は「初めてこの踊りを見ました。ご飯を食べる時は感謝して食べたいです」と話していました。

## 職員の護身訓練を初開催



J A筑紫は、筑紫野市のJ A本店で、女性職員を対象とした護身訓練を初めて開きました。女性が被害に遭う悪質な犯罪が増加していることから、渉外担当者など外出する機会が多い職員の保護が目的。女性職員25名が参加しました。筑紫野警察署生活安全課の署員が、襲われた際に効果的な対処方法を説明。職員が模擬訓練を行いました。

参加した職員は「自分より力が強い相手から逃げるために、どう対処したら良いか知ることができました」と話していました。

## 一日農業新聞研修会



J A筑紫は、日本農業新聞の普及推進を目的に、一日日本農業新聞研修会を開き、J A役職員が参加しました。日本農業新聞九州支所の細田勇治次長が情勢報告をしました。

J A広報活動と日本農業新聞が果たす役割について、J A役職員が理解を深め普及目標達成に向けた意思統一を図りました。J Aでは農業やJ Aグループ、協同組合について理解と協力を得るために、今後も普及活動に努めます。

## 品質管理の徹底目指す



J A筑紫は、筑紫野市のJ A物流センターで平成30年度カントリーエレベーター運営委員会を開きました。稼働を前に、搬入方法や品質事故防止などの注意事項を話し合い、品質管理の徹底を目指します。

米麦情勢や生育状況の報告の他、30年産水稻処理計画など全6項目を協議。農事組合や生産部会の代表、J A役職員らが参加しました。今年の水稲処理計画は荷受生重量で、「夢つくし」521t、「元気つくし」820t、「ヒノヒカリ」760tの合計2,101tを計画しています。

また、同日に那珂川町で30年度ライスセンター運営委員会を開き、適切な運営管理を協議しました。



## 夏休み恒例ちゃぐりんフェスタ開催



ＪＡ筑紫は８月２５日、組合員や地域とのつながりを強化するふれあい活動の一環として、筑紫野市のＪＡ本店で「第１２回ちゃぐりんフェスタ ２０１８」を開催し、終日大盛況に終わりました。夏休み恒例の子ども向けのイベントとして好評で、地域での認知度も年々高まり、今年で１２回目を迎えました。約１,６４０名の親子連れが来場しました。

屋外会場の体験コーナーは、ＪＡ管内５地区の組合員や職員らが教える竹笛や木工細工作りなどを行いました。子ども達は、組合員や職員などとふれあいながら手作り工作を楽しんでいました。屋内会場のステージでは、福岡農業高校デザイン科による「食育クイズ」や、地元の子どもグループが元気なダンスを来場者に披露。来場した親子は「親子で毎年楽しみにしているイベント。様々なコーナーがあり１日楽しめました」と笑顔で話していました。

## 親子でみそ作り体験



ＪＡ筑紫は８月２５日、管内の親子を対象に、みそ作り体験教室を開きました。同日に行われた「ちゃぐりんフェスタ」の催しのひとつ。みそ作りを通じて、食と農への理解を深めてもらおうと企画しました。

筑紫野市の農事組合法人山口農産と、ＪＡ女性部員が講師を務め、親子１２組３５人にみそ作りの手順を説明。親子は蒸した大豆をつぶし、みそが出来るまでの手順を学びました。

参加した母親は「みそ作りに興味があり参加しました。子どもも楽しんでいて、食に興味をもってくれたら嬉しいです」と話していました。

## JA職員が園児にアスパラガス授業



JA筑紫営農生活部の職員が8月29日、筑紫野市立二日市保育所で、5歳児クラスの約40名の園児に向けてアスパラガスの授業を行いました。地元で生産されている農産物について学ぶ食育教室の一環です。

JA筑紫営農生活部職員が講師を務め、園児にアスパラガスについて説明。園児は、実際にアスパラガスを手に取りながら、栽培から食卓に並ぶまでの過程を学び、園児からは多くの質問があがっていました。今後は、アスパラガスの絵を描き、学習の成果を高める予定です。教諭は「園児が興味を持ち、質問していました。勉強になったと思います」と話していました。

二日市保育所では、給食に使う地元の農産物の展示や、保護者向けに食育新聞を発行するなど、食育活動にも積極的に取り組んでいました。

## ブロッコリー部会 育苗巡回

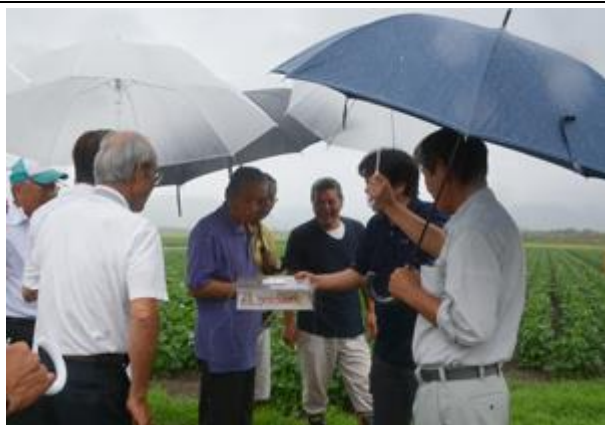


JA筑紫ブロッコリー部会は8月30日、苗作りの均一化を図ろうと、部会員の圃場を巡回し、育苗状態を確認しました。部会員13名と福岡普及指導センター、JA農業振興課職員3名が参加し、互いの栽培方法など熱心に情報交換を行いました。

部会では、7月に播種を始め、8月から定植をしています。出荷期間は秋冬作型で10～3月ごろまで続きます。部会員は、圃場や生育状況を連絡し、出荷確認するなど、入念な栽培工程を踏み、高品質で統一した出荷に一丸となって取り組んでいます。

JA農業振興課の担当職員は「高品質なブロッコリーを出荷するために、今後も十分に注意しながら栽培管理を行っていきたいです」と話していました。

## 高品質な大豆作りを目指す



JA筑紫は8月30日、筑紫野市で平成30年産大豆中間管理研修会を開きました。適正な栽培管理を心がけ、高品質な大豆作りを目指します。研修会には、生産者や、福岡普及指導センター、JA全農ふくれん、JA農産課職員など15名が参加。

生育状況や、排水や乾燥対策を含めた今後の栽培管理の説明を聞いた参加者は、真剣な表情で除草などについて質問しました。

法人代表理事の藤井徳浩さんは「この研修会で生産者の意欲が高まりました。これから生産者同士で一致団結して反収を上げていきたいです」と意気込みました。